The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タイ語の「maa」の意味拡張，日本語の「来る／てくる」を手がかりに
Author(s)	久保田，育美
Citation	日本語・日本文化研究. 2015, 25, p. 112-121
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54498
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

タイ語の「maa」の意味拡張
―日本語の「来る／てくる」を手がかりに―

久保田　育美

1. はじめに

本稿では、タイ語[i]の maa の意味的に拡張した用法を取り上げる。maa は、日本語の「来る」に相当し、辞書的語義は「話し手の近くへの移動[ii]」である。maa は、maa が他の動詞に先行して本動詞として用いられる場合（「maaV」）と、maa が他の動詞に後続して補助動詞として用いられる場合（「Vmaa」）があり、「maaV」は日本語の「V（し）に来る」に相当して maa 本来の意味である移動をあらわすが、「Vmaa」は、人や物の移動、動作の方向、状態変化といった多様な意味をあらわす。日本語の本動詞「来る」と補助動詞「てくる」でも同様のことが言え、補助動詞「てくる」に関しては、「来る」の意味を基本とした意味拡張が起こっていることが従来の研究で明らかにされている。本稿では、タイ語の maa に焦点をしぼり、タイ語においても意味的に拡張した用法が存在することを示し、「話し手の近くへの移動」という概念を基本にしつつも、話し手による事態の捉え方が maa の使用に大きく関わることを主張する。

2. タイ語の maa の基本的用法[iii]

2.1「maaV」

maa は、本動詞として用いられる場合、後に場所をあらわす名詞や目的をあらわす動詞句をとり、主語の移動をあらわす。

（1）pai thiinoon <u>maa</u> thiinii
　行く　あそこ　来る　ここ
　あそこへ行く。ここへ来る。　［峰岸・タッサニー2002 : 213］

（2）khao <u>maa</u>　kin　khaao thii rooŋaahaan
　彼/彼女来る　食べる　ごはん　場所　　食堂
　彼／彼女は食堂にごはんを食べに来た。

2.2「Vmaa」

maa には、他の動詞に後続して動作の方向を表す補助動詞としての用法もある。Rangkupan（1992）は、補助動詞 maa には空間的用法と時間的用法があると述べている。

2.2.1「Vmaa」の空間的用法

Rangkupan（1992）は、maa が空間的用法として機能する場合、maa があらわす移動には、（ｉ）主語の移動、（ii）目的語の移動、（iii）主語と目的語の移動、（iv）目に見えない移動、があるとしている。

（3）dəən caak baan maa mahaawitthayaalai thukwan …（ｉ）
歩く　から　家　来る　大学　毎日
毎日家から大学まで歩いて来る。

（4）thammai khao mai ɔɔk maa …（ｉ）
なぜ　彼/彼女 否定　出る　来る
どうして彼／彼女は出てこないの。

（5）khao soŋ ŋən maa thiithamkaanpraisanii …（ii）
彼/彼女 送る お金 来る　郵便局
彼／彼女は郵便局にお金を送ってきた。

（6）khao phaa fɛɛn maa thii baan chan …（iii）
彼/彼女 連れる 恋人 来る 場所 家　私
彼／彼女は私の家に恋人を連れてきた。

（7）mɯakii tharoo thooraṣap maa haa chan …（iv）
さっき　太郎　電話する 来る 探す　私
さっき太郎が私に電話してきた。

（3）（4）は主語である話し手、彼（または彼女）の移動、（5）は目的語であるお金の移動、（6）は主語である彼（または彼女）と目的語である恋人の移動、そして（7）は「電話する」があらわすメッセージの移動をあらわしており、いずれの用例も動作が向かう先は話し手（あるいは話し手側にいる人物）がいる場所だと解釈できる。また、移動対象の到着点が話し手あるいは被動作主ではない場合、話し手自身が視点をどこに置くかによって、話し手は表現の選択をすることができる。話し手が事態が生起する起点に視点を置くのであれば pai（行く）が、事態の到着点に視点を置くのであれば maa が用いられる。

タイ語に見られる統語的特徴の一つとして、動詞連続が豊富に見られることが挙げられる。タイ語は動詞句を並べることで動作の順序をあらわすため、文成立にあたっては語順が決定的な役割を果たすことが多い。移動をあらわす maa が文中のどこに置かれるかによって移動対象がかわり、文の意味も変わってくるのである。たとえば、（5）は「お金を送る→（お金が）来る」という語順だが、以下のように maa の位置を変えることで、全く違う意味をもつ文となる（自然なタイ語文にするため、（8b）では pai を付け足している）。

（8）a.　khao　maa soŋ ŋən thiithamkaanpraisanii

彼/彼女 来る 送る　お金　　郵便局

彼／彼女は郵便局にお金を送りに来た。

（来る→お金を送る）

b.　khao　pai　soŋ ŋən thiithamkaanpraisanii maa

彼/彼女　行く 送る お金　　郵便局　　来る

彼／彼女は郵便局にお金を送りに行ってきた。

（（郵便局に）行く→お金を送る→（元の場所に戻って）来る）

2.2.2 「Vmaa」の時間的用法

時間的用法に関して、Rangkupan は以下の用例をあげている。

（9）cum　thon　kɛɛ　dai maa taŋtɛɛ rɛɛk

ジュム 耐える あなた 可能 来る から　最初

ジュムは最初からあなたに耐えてきた。　［Rangkupan1992 : 89］

（10）naai　pen phuan chan maa naan

あなた COPU 友だち　私　来る 長い

あなたはもう長い間私の友だちだ。　［Rangkupan1992 : 89］

（11）pai thuŋ paachaachaaŋ maa la　si

行く 着く　象の墓地　　来る 完了 終助詞

象の墓地にもう行ってきたでしょ。　［Rangkupan1992 : 91］

（9）（10）は、「耐える」「友だちである」ことが過去に始まり、それが今現在もなお続いていることをあらしており、話し手の視点が発話時の状況、つまり今現在に置かれている。一方、（11）は「象の墓地に行く」という行為を終えて元の場所に戻ってきたことをあらわす完了の用法である。Rangkupan は（11）を発話するにあたり、話し手は、相手が象の墓地に行くことを pai を用いることで自分の側から相手が遠ざかる移動だと捉え、続いて maa を用いて相手が自分の側へ戻ってきたと捉えていることから、（11）における maa は空間的用法と時間的用法の双方として位置づけることができると述べている。

以上、maa の基本的用法として、本動詞および補助動詞の用法を概観した。補助動詞の用法として空間的用法と時間的用法の 2 つが挙げられるが、どちらも maa であらわされた事態の到着点に話し手が位置している、あるいは、話し手が到着点に視点を置いている点で、maa の本来の意味である「話し手に近づく移動」を基本としていると言える。

3. maa の意味拡張

峰岸・タッサニー（2003）には、maa が他の動詞に先行する場合、物理的な移動をともなわない心理的移動をあらわす用法についての記述がある。しかし、用例の紹介にとどまり、詳細な分析は行われていない。

（12）tɔɔpainii rao maa rian phaasaasaat kan thə
次 私たち 来る 勉強する 言語学 一緒に 終助詞
これから私たちは言語学について学ぶことにしましょう。 ［峰岸・タッサニー2003 : 246］

峰岸・タッサニー（2003）は、（12）の maa は何人もの人間が話し手を中心に一緒にある行為を行うことを示していると述べている。このような用例は、話し手側に複数の人が移動し、そして話し手を中心に人の気持ちも集まることをあらわしている点で、移動の概念から派生した拡張用法だと言えよう。

本節では、2 節の基本的用法には見られなかった maa の使用について調べるため、より多くの用例を概観し、どのような意味拡張が起こっているかを考察する。

3.1 直接対話にみられる「maaV」

2 節で確認したように、「maaV」であらわされる maa は本動詞としての機能を果たしており、「V（し）に来る」という動作主の移動がともなうはずである。

しかし、以下の用例はどうだろうか。いずれの用例も「maaV」であるが、場面は直接対話場面（話し手、聞き手がお互いの面前にいて言葉が交わされる場面）である。

（13）nɯk waa kɛɛ maa ciip chan
思う ～と おまえ 来る 告白する わたし
あんたが私に告白しに来たのかと思った。

（14）（自分のことを親しげに「パパ」と呼ぶ別れた恋人に対して）
yaa maa riak phom yaaŋnii na
禁止 来る 呼ぶ 僕 このように 終助詞
僕のことをそんなふうに呼びに来るな。 ［*dok som see tong*］

（15）khun (yaak) maa (loŋ) chɯa chan thammai
あなた 欲しい 来る 惑う 信じる 私 なぜ
あなたはなぜ私の言うことなど信じに来たの。 ［峰岸・タッサニー2003 : 245］

（13）～（15）のような、発話時において話し手も聞き手も移動していない直接対話場面における「maaV」はどう解釈できるのだろうか。

一つ目は、言及されている事態の生起には聞き手（動作主）が話し手のほうに向かってきたという前提があるとする捉え方である（以下、A［人の移動］とする）。たとえ発話時において人の移動が見られなくても、それ以前に話し手または聞き手が違う場所から今いる場所に移動してきているはずなので、聞き手が、話し手がいる方に移動していれば、本動詞 maa が使用されるのも納得できる。

二つ目は、人の移動ではなく、話し手側に向けられた事態の方向性だと捉える、つまり、（14）を例にすれば、「X が僕を「パパ」と呼びに来た」ではなく、「［X が僕を「パパ」と呼んだこと］が僕の方に来た」と捉える場合である（以下、B［事態の方向性］とする）。このような例は日本語の場合、補助動詞「てくる」で表現されるが、以下の用例を見れば、日本語の解釈として、主語である動作主や目的語の話し手側への移動とするのは不自然であることが分かる。

（16）先方が、さっき文句を言ってきました。　［今仁 1990 : 58］
（17）ケンは値段を 2 倍につりあげてきた。　［古賀 2008 : 246］

ここで（13）～（15）の例をもってタイ語の方向性の明確さについて言及しておきたい。たとえば日本語で、A［人の移動］と解釈すれば「V（し）に来る」、B［事態の方向性］として解釈すれば「V てくる」となるのが普通であるが、いずれの解釈にせよ、日本語では（13）～（15）を「V（し）に来る／V てくる」であらわさないのが自然である。状況からして（13）～（15）は日本語に置き換えれば B［事態の方向性］として考えられるだろうが、実際日本語で表現した場合、以下のように「てくる」を用いない方が自然な日本語となる。

（18）あんたが私に｛告白した／#告白してきた｝のかと思った。
（19）僕のことをそんなふうに｛呼ぶな／#呼んでくるな｝。
（20）あなたはなぜ私の言うことなど｛信じたの／#信じてきたの｝。

タイ語では話し手に向けられた行為に対して直接対話で相手に maa を用いることができるが、全く同じ状況では日本語の「てくる」が用いられにくくなる。これにはどういった要因が関わっているのであろうか。

考えられる要因の一つとして、池上（2004）が示す日本語の直接対話場面における言語表現の特徴との関係を考えたい。池上は、日本語において、話し手の気持ちの外面的なあらわれが見てとれ、確認できるような表現は、直接対話の場面では有意義な情報を担う表現として使われるはずがないと指摘している。池上は「テイル」を例として挙げており、手紙のやりとりで「（前略）私も心より悲しんでおります」「（前略）お子様の死を（あなた

様が）深く悲しんでいらっしゃることと存じます」といった表現がなされても違和感がないが、直接対話において「私は悲しんでいる」「あなたは悲しんでいる」は顕著に違和感があると述べている。これは、「悲しい」はふつう他者にとって感知不可能である話し手の私的な心的過程であるが、「テイル」をつければ、本来当人にしか分からない気持の外面的な現れが見てとれ、確認できる表現となり、それは直接対話場面において有益な表現とはならないからである。「てくる」に置き換えても似たような考え方ができるであろう。直接対話では、誰が誰に向かって行為を差し向けたかがはっきりしており、対話をしている二人の間でもそれは確認できる事柄である。逆に、（18）～（20）の状況を第三者に向けた発話や叙述文としてあらわすのであれば、「てくる」の許容度が上がると思われる。

（21）さっき、太郎が告白してきたのかと思って、びっくりしたわ。
（22）別れた恋人が私のことを「パパ」と呼んできた。

このように、直接対話場面における日本語の「てくる」の使用に関して考察すると、タイ語で maa をとることができるのは、タイ語表現に見られる空間的な方向性を明示的に示す傾向に起因していると考えられるのではないだろうか。このような特徴は、田中（2004：51）で、タイ語では動詞の後に置かれて空間・時間の方向や程度の変化をあらわす補助動詞の一種である方向動詞が頻用されると述べられていることからも裏付けられる[iv]。

maa の解釈に話題を戻そう。（13）～（15）のタイ語会話は前述の通り、A［人の移動］と B［事態の方向性］の二通りの解釈ができるが、本稿では B［事態の方向性］の立場をとる。次節では、事態の方向性をあらわす日本語の「てくる」の使用を参考に、本節であげた「maaV」の用例も B［事態の方向性］の捉え方が優勢であることを示したい。

3.2 事態の方向性をあらわす「maaV」

タイ語の用例を分析する前に、日本語に見られる現象を確認しておく。日本語では、話し手に差し向けられた事態の方向性をあらわす際に、補助動詞「てくる」が用いられることがある。今仁（1990）が「てくる」に関して、移動の対象としては、目に見えないものの波及や当事者に及ぶ何らかの影響（被害、苦痛、喜び、驚きなど）も含まれると指摘しているように、話し手側への事態の方向性が「てくる」で表される際に、そこに話し手が受ける影響がうかがえることが従来の研究でも指摘されている。

（23）a. #太郎が「今日は 12 月 1 日だね」と言ってきた。
　　b. 太郎が「院生室の蔵書リストを作ってくれ」と言ってきた。

同じ「言う」という行為であっても、(23a)「今日は 12 月 1 日だ」という相手の発言は

特別な文脈がない限り話し手に影響を及ぼすようなことではない。それに対して、(23b)「院生室の蔵書リストを作ってくれ」は話し手にある行為をさせ、さらにはそれが話し手にとって迷惑だ、なぜ自分なのだ、など何かしらの感情を抱かせるような発言であるため、「てくる」の許容度が高まる。

筆者はタイ語の maa にも日本語と同様、話し手が受ける影響をあらわす拡張用法があるのではないかと考えている。以下の用例では、maa が話し手の心的影響をあらわしていると思われる。

（24）a.（「ii baa（バカ野郎）」という不適切な言い方をするタイ語学習者に、注意の意を込めて）

pʰɯɯt̚ yaaŋnii.　mai phrɔ　na

話す　このように　否定　きれい　終助詞

そんなふうに話すの、きれいじゃないよ。

b.（「ii baa（バカ野郎）」というひどい言い方をするタイ人の友人に対して）

maa pʰɯɯt̚ yaaŋnii.　mai chɔɔp ləəi

来る　話すこのように　否定　好き　強調

そんなふうに話しに来るの、好きじゃない。

（24a）（24b）ともに、直接対話場面である。どちらも、「話す」行為を行った相手から話し手への方向性が存在している点は共通しているが、(24a) で maa が用いられず、(24b) で maa が用いられるのは、話し手が相手の発言により影響を受けているか否かに起因していると考えられよう。(24a) のような単なる注意喚起は話し手の心にまで影響を与えることではないが、(24b) では話し手が相手の発話を受けて不快に感じ、心的影響を受けている。

（25）yaa　maa　ɣuŋ̩ kap chan

禁止　来る　煩わす　～と　私

私を煩わしに来るな。(私のことは放っておいてほしい)　［峰岸・タッサニー2003 : 245］

（26）(母におねだりしようとする子どもが)

mɛɛ　khaa

お母さん　終助詞

お母さん。

yaa　maa

禁止　来る

やめて。

峰岸・タッサニー（2003）が、（25）は「わざわざ煩わせるな」という話し手の心情を示していると述べているように、（25）（26）は話し手に及ぶ心的影響を表していると言えよう。（26）の「yaa maa」は、「yaa maa」の後ろの部分が省かれたイディオムだと捉えられ、maa に後続する動詞が省略できるということは、すなわち、具体的な行為が問題となっているのではなく、「やめて」という話し手の気持ちがあらわされているのだろう。

3.3 話し手への方向性をあらわさない「maaV」

これまで見てきた「maaV」はいずれも、文中で言及されている事態が話し手に差し向けられたものであった。これに当てはまらない例として、以下の用例を見たい。

（27）（指導教官が学生に対して）

iik 2 duan.　ca maa　naŋ naŋ nɔ̀ɔ̀n nɔ̀ɔ̀n yuu bɛɛpnii　mai dai　na

残り 2 ヶ月　意志 来る 座る 座る 寝る 寝る 継続 このように 否定 可能 終助詞

残り 2 ヶ月、そんなふうにダラダラしていてはだめですよ。

学生が「ダラダラする」ことは、個人的な行為であり、その行為自体が他人に影響を及ぼすことではない。しかし、指導教官である話し手にとって自分の学生の怠惰な姿は物理的にも心理的にも何かしらの影響を及ぼす事態かもしれない。話し手がここで maa を用いるのは、本来自分とは関係ない事態と自分とを関与付けているからだと考えられる。

3.4 時間の移動をあらわす「maaV」

次に挙げる用例は、時間に関わる用例である。

（28）teeŋŋaan maa 10 pii.　phəŋ maa mii luuk

結婚する　来る 10 年　ばかり 来る ある 子ども

結婚して 10 年。やっと子どもができた。

（29）kɛɛ　maa　siacai　thammai tɔɔnnii

おまえ 来る 残念に思う　なぜ　今

あんた、今さらなぜ残念に思っているの。

筆者は、（28）（29）のような用例を時間の移動であると考える。たとえば（28）において、本来「子どもができる」という事態は、現在より早い時期であったはずが、結婚 10 年目にしてやっとその事態が生起した、数年前に起こるはずのことが今、話し手が発話している今に来た、という捉え方ができるだろう。（29）も同じく、過去に「残念に思う」べきことが、今になってそうなったと捉えられる。これらの用法は、本来事態が生起したと

きにそうなるべきであったことが今現在になってやっとそうなった（到着点が現在）ことをあらわしていると考える。

5. おわりに

以上、タイ語の maa の意味的な拡張用法に焦点を当てて用例を概観した。明らかになったのは、まず maa が本動詞として使われる「maaV」の場合に意味拡張が起こる点である。語順が動作の順序をあらわすタイ語の特徴に従えば、本来「（主語が）来る→V を行う」という主語の移動が含まれる解釈になるはずだが、本稿で見てきたように、必ずしも明示的な移動がともなわない maa の用法があることが分かった。また、このような maa が使用される場合には、差し向けられた事態に対して話し手が何かしらの影響を受けたと感じた場合、話し手が自分と事態との間に関わりを見出した場合、そして、時間的な今を話し手がいる地点とし時間を移動に見立てた場合があることが分かった。しかし、いずれの場合も、話し手が事態の到着点が話し手自身の側であるとみなしており、話し手と事態とを関与付けることが maa の意味拡張に繋がっていると考えられる。

注

i タイ語は孤立語であり、基本語順は主語＋動詞＋目的語の SVO 型、被修飾語＋修飾語の NA 型である。タイ文字は子音文字に母音記号と声調記号を組み合わせて表記する音節文字を用いて表記するが、本稿では音韻表記を用いてタイ語を表す。ただし、声調の表記は省略した。

ii 『タイ語辞書第５版』（1976：726）より。日本語訳は筆者による。

iii 出典の記載がない用例はすべて、タイ語母語話者による作例、または、タイ語母語話者の会話をもとにした筆者による作例である。

iv 本稿でこれまで示してきたような maa や pai（行く）を用いる用例のほか、方向動詞が用いられる例として、田中（2004）は以下のような例をあげている。
suai khɯn（きれい+上がる→きれいになる）、kəət khɯn（起こる+上がる→発生する）
thuuk loŋ（安い+下がる→安くなる）、naŋ loŋ（座る+下がる→座る）

【参考文献】

池上嘉彦（2004）「言語における＜主観性＞と＜主観性＞の言語的指標（２）」『認知言語学論考 No.4 2004』ひつじ書房 pp.1-60

今仁生美（1990）「V テクルと V テイクについて」『日本語学』第 9 巻第 5 号, pp. 54-66

菊池敦子（2002）「COME とクルの意味拡張における到着点の違い」佐藤滋・堀江薫・中村渉（編）『対照言語学の新展開』ひつじ書房 pp.27-45

久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店

古賀裕章（2008）「「てくる」のヴォイスに関連する機能」森雄一・西村義樹・山田進・米田三明（編）『ことばのダイナミズム』くろしお出版

田中寛（2004）『統語構造を中心とする日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

峰岸真琴，タッサニー・メーターピスィット（2003）「タイ語の「行く・来る」」『東南アジ

ア大陸部諸言語の「行く・来る」』東南アジア諸言語研究会編 pp.211-248
森田良行（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房
มานิต มานิตเจริญ（1976）“*พจนานุกรมไทย พิมพ์ครั้งที่๕* ”, ห้างหุ้นส่วนจำกัดบำรุงสาส์น, กรุงเทพฯ
［Manitcaroeng, Manit（1976）『タイ語辞書第５版』Bamrung-sarn-Itd., Bangkok.］
สุดา รังกุพันธุ์（1992）“*กริยารอง ไป และ มา ในภาษาไทย* ”, จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. บัณฑิตวิทยาลัย
［Rangkupan, Suda（1992）“*Subsidiary Verbs/Pay/ ‘Go’ and/Maa/ ‘Come’ in Thai*”, Chulalongkorn University. Bangkok. (Thailand). Graduate School ］

【用例出典】

ถ่ายเถา สุจริตกุล（2011）“*ดอกส้มสีทอง*”,บรอดาซท์ ไทย เทเลวิชั่น
［Sutcaritkun, Thaaithao（2011）“*dok som see tong”,* Broadcast Thai Television］